

市長記者会見記録

日時：2024年8月2日（金）14時00分～14時29分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。 本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いします。

《庁舎の移転等について》

【東京（幹事社）】 8月幹事社の東京新聞です。よろしくお願いします。

ちょっと質問の順番、悩んだんですけども、今週から市教委が第3庁舎に移って、庁舎の移転が完了したと思うんですけども、それによる効果とかをどのように捉えていらっしゃるか、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 仕事がやりやすくなるというのは、近くなるという物理的なこともありますし、これまで分散していたことによって、民間のビルを借りているお金が削減されますので、年間約9億円の賃借料が軽減されるという財政的な効果もあると考えております。

以上です。

【東京（幹事社）】 第2庁舎の解体がほとんど終わっているのかなと思うんですけども、第4庁舎も庁舎としての機能ではなくなるのかなと思うんですけども、第3庁舎の名称はこのままでいくのか、それとも変えられる予定があれば教えてください。

【市長】 あれ、どうだったかな、第3庁舎の話。たしか議論していましたが、ちょっと今、瞬間思い出せないので、また後日お答えしたいと思います。

《小学校における動物の飼育について》

【東京（幹事社）】 話変わりますが、先週末から高津区の市立小学校で飼われているウサギについて、飼育環境が、この暑さの中で、外で飼われているのは大変なんじゃないかとか、病気なんじゃないかとか、いろんな意見がウサギを愛している方々から学校やSNSなどに寄せられたようなんですけども、学校のほうはちゃんと病院には連れていっているということおっしゃってはいらっしゃいましたけれども、もちろん学校で動物を飼うことに、子供たちへの成長に役立つ部分というのは大きいのかなと思うんですけども、学校のほうでもアレルギーのある先生が病院に連れていったり世話をしたりしているというお話もありましたので、先生の働き方改革とか動物愛護の観点からいうと、学校で動物を飼い続けるということもなかなか難しい時代に入ってきているのかなということを感じたんですが、学校での動物の飼育について、考えていらっしゃるものがあったらお聞かせいただけます

でしょうか。

【市長】 動物を飼育しているところは、学校ごとによって、随分と、何を飼育しているのかというのはそれぞれに違うと思うので、それぞれに応じた適切な飼育環境を整えていただくことがとても大事だと思います。命の大切さというのを学ぶ上でも、生き物をみんなで協力し合いながら飼育するというのは、教育的効果は私は高いと思っていますし、私自身も子供の頃そういうことを感じたことがあります。

昨今の異常な猛暑ということで、夏季休業中は、これまで以上に想定していないような注意は払わなくちゃいけないと思うので、それは学校の先生だけじゃなくて、いろんな形でその体制を整えていただくことが大事だと思います。

《社会福祉法人母子育成会等について》

【東京（幹事社）】 すみません、母子育成会の話なんですけれども、前理事長が市長の政経セミナーの会費を法人の口座から振り込んでいたという話がありました。これに関連してなんですけれども、前理事長が市長の政経セミナーの会費を購入したことが何回ぐらいあったのか、幾らぐらい買っていたのかということが分かれば教えていただけますでしょうか。

【市長】 そもそも東京新聞の今日の記事というのは、悪意しか感じない。非常におとしめる、私をおとしめる内容であったと思います。私の行っている政治資金パーティーと今回の案件と、何の関係があるのかと、正直言って憤りを感じております。

献金と違いますので、いわゆる講演に対する対価という形で払われるものでありますので、かつ、その公開基準は献金とは異なります。ですので、そういった意味では、購入の有無、あるいは金額は、一般論としてでありますけれども、購入者からしっかりそれを公開してもいいよという承諾を得なければ、公開されるべきものではないと思っていますし、これまでも、あるいはこれから、購入していただいた方、あるいは購入される方に多大な影響を与えていると思いますので、もしそれを確かめるにしても、購入者の方に適切な形でしっかりと承諾を得てから公開しなくちゃいけないと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。昨日、一部の報道機関に対して法人の職員などが取材に応じてくれたんですけれども、その中で、市長のこれまでの説明とちょっと違うかなと感じたのが、市長がお酒を飲みたくなると電話してきて、何か飲みに連れて行ってよというおねだりをしていたというのを職員も聞いていたという説明が向こうからあったのですけれども、それは事実と異なるということではよろしいでしょうか。

【市長】 全く異なります。私そんな暇じゃありません。これまでに言ったとおり、深瀬さんと御飯を食べに行ったのは4回です。4年間で4回。以上です。

あり得ない話です。何らかのこのタイミングでそういった会見を行い、これから監査を受けるという団体のところが、そういった政治的なことを含めて発言しているというのは、何らかの意図があると思わざるを得ませんし、非常に不愉快極まりありません。

【東京（幹事社）】 あと、市長の後援会などに対して、平成27年11月に計16万円、

平成28年1月に計24万円などを施設から出した。そのときは現金で理事長に渡したということをおっしゃっていたんですけど、それも心当たりはないですか。

【市長】 あり得ません。私は、現金を頂くなんていうことはあり得ません。これまで説明してきたとおりです。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。監査に関連してなんですけれども、施設の監査が行われた後に文書指導が出る前に、公表メモというような形で施設側にメールが送られてきていたという話があったんですけれども、そのような公表メモが監査の後に施設に対して送られるというのは、川崎市ではあることなのか、それとも通常はないことなのか、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 分かりません。監査の在り方について、これから検証していくというのはこれまでも申し上げてきたとおりで、その体制をしっかりと整えてしっかりとチェックします。

【東京（幹事社）】 ありがとうございました。

各社、いかがでしょうか。

【市長】 しかし、本当にそんなあり得もしないことをそういうふうにぺらぺらとしゃべって、おとしめるようなことがあっていいんでしょうか。そして、そんなことを、はっきり言って説明してもらいたいんですけどね、どういうつもりでこの記事を書いているのかも含めて。何の関係があるんだと。要は、法人が講演を聞きたいという思いで購入して、そのサービスの対価を得た。それは普通の消費行動と何ら変わることはないと思いますけれども。本当に、ちょっと報道機関とは思えないな。

ほかの質問あったら、どうぞ。

【読売】 母子育成会に関連してなんですけれども、監査の対象になっている前理事長との会食に応じた理由というのは、どういうところにあるんでしょう。

【市長】 うん？ 何を応じた？

【読売】 前理事長と会食に4回行かれたってお話しされていたと思うんですけれども、それは先方からどういう理由で誘いがあって、どうして市長は応じたかというところを教えてくださいたいんですが。

【市長】 前にも説明したとおりですけれども、前理事長のお父様の時代から、私、お付き合いがありました。そういった中で、年に1回お誘いを受けて、時期的には、全て日付分かっておりますので、何日にどこで会食してというのは、私、記録取っておりますから。事務所が。そういった意味で、はっきりしております。それ、普通のただの会食ということで、それに何ら、そのぐらいはほかの方でもある話です。一般的な会食です。

【読売】 監査対象にもなっている法人の理事長とというのが、市長と……。

【市長】 監査対象になっているというのは、市内の社会福祉法人であれば全部です。というのは、社会福祉法人とは何か会っちゃいけないとかということをおっしゃっているんですか。

【読売】 いや、そういう意図ではなくて、監査対象に、市が一応監査の対象、権限を持っ

ているじゃないですか、社会福祉法人の。

【市長】 ええ。だから、監査対象は全ての社会福祉法人ということですよ。

【読売】 はい。そういう会食があつていいのかという意見も一部あつたので、どういうつながりで市長は会食に行ったのかなと思って質問したんですけれども。

【市長】 いや、私、いろんな方と会食しますよ。皆さんもそうですし、企業の皆さんとも、市内のお取引、本市とお取引あるところとも会食しますし、お会いしたりしますしというのはあります。会うことが適切でないとか、会食することが適切でないということは、ちょっと意味が分かりません。要するに、私が会って何か要請を受けて、いわゆる適法でないことを私が役所の中で便宜を図るだとか何だとかということは、それは絶対にあつてはなりません。そういうことです。

【読売】 分かりました。

【神奈川】 神奈川新聞です。

市として、母子育成会というのは赤字が続いていて、ちょっと経営状態が悪化しているというような話というのは、市長は把握はされていたんですよ。それとも、されてはなかったんですか。経営があんまりよくないと。要は、本来3年に一度監査でいい、監査の、3年一度でいいものを市は毎年やっていて、コロナ禍以外は毎年毎年やっていたということは把握されていたんですか。

【市長】 いや、知りません。というか、この前もちょっと公の場じゃないところで申し上げたと思うんですけれども、そもそも監査権限が県から市に移行したことすら、ちょっと不勉強で申し訳ない、恥ずかしい思いですけれども、そのことすら、私、知らなかったんです。ですから、3年に一遍が毎年だったとか何だとか、そんなもの一切知りません。

【神奈川】 一切知らなかったと。

【市長】 はい。

【神奈川】 分かりました。

《ふるさと納税等について》

【日経】 日本経済新聞です。

先日、市が決算、23年度、令和5年度の決算を発表されました。市税の控除額、流出額、ふるさと納税による流出額ですね、123億円に20億円ほど拡大しました。これまでもいろいろお話はお伺いしていますけれども、改めてこの流出額と、あと寄附受入額の拡大に対して、取組をお聞かせください。

【市長】 不交付団体である中で、これだけ毎年毎年、寄附額、ふるさと納税の流出額が拡大していつているということに、市民サービスの低下への影響を非常に懸念しております。

一方で、これまで返礼品競争に参加しないと言っていた立場を数年前から改めまして、不本意ではありますが、とにかく返礼品の開発に力を今入れているところでありまして、寄附受入額の増額に向けて、ふるさと納税サイトを拡大したりという形で受入枠の拡大を図ってきております。

一方で、これまでもいろんな場で申し上げてきておりますけれども、ふるさと納税の趣旨というものを市民の皆さんに深く考えていただきたいというのは、これからも繰り返し言っていきたいと思います。カタログギフトではないということにぜひ御理解をいただきたいと思っています。

【日経】 ありがとうございます。

《社会福祉法人母子育成会等について》

【読売】 先ほどの母子育成会に関連してなんですけれども、市として監査のやり方が正しかったかどうかという、第三者の目を入れてというお話もあったと思うんですけど、そこら辺の動きは現状どうなっているのでしょうか。

【市長】 まず、遅くとも、この監査の検証結果については、年度内に取りまとめることを念頭にあります。客観性を担保しつつスピード感も重要でありまして、検討体制の設置に時間のかからない手法として、有識者の御意見、御助言がいただけるような形を整えたいと考えております。個別に専門家の意見を聴くだけではなくて、委員相互の意見交換の場などを設けて、市の監査の状況を確認してもらうことなどによって、しっかりと客観性を担保していきたいと思っております。

外部有識者の皆さんになっていただく、見ていただくということで、弁護士ですとか公認会計士、福祉分野の学識経験者などを想定しております。大丈夫でしょうか。

【読売】 それは有識者会議という名目になりますか。

【市長】 何という名称にするかというのは、誰か。すみません。

【健康福祉局】 お世話になります。健康福祉局でございます。

今の外部有識者なんですけれども、市長から御説明ありましたとおり、3分野の方を想定して、今、人選を進めているところでございまして、形としては、委員会形式にしてしまいますと、設定とかに時間を要することも考えられますことから、特別職非常勤職員として任用させていただいて、日額のほうでお支払いをするという形で個別での御対応、あと、今、市長のほうから発言ございました、集まっていただいて会議形式でもという形で、柔軟に対応する形で進めているところでございます。

以上でございます。

【読売】 具体的な話なんですけれども、監査の検証というのは、その中でどういう項目で、どういう形で検証していくかというのは決まっていますか。

【市長】 回答できますか。

【健康福祉局】 お世話になります。健康福祉局でございます。

私ども健康福祉局も担当としては入るんですけれども、自分たち自身が行った監査の検証となりますので、総務企画局のコンプライアンス担当様のお力もお借りしながら、まず庁内での客観性を担保する。それに加えて、外部有識者から御意見をいただくということで、二重の外部の目を入れるというか、局内だけではない、皆様に御理解いただけるような検証の報告とする形で取りまとめることを進めておりまして、まずは法人監査について、今決ま

っているのは、所管局から資料等の御提示をさせていただき、御説明をまず委員のほうにさせていただく。必要に応じて、もちろんヒアリング等も行いますし、それについて、外部有識者の皆様から御意見をいただくという形で形式は想定しておりますし、あと、いろいろな御意見等の中で、私どもに所属していた元職員からいろいろなことが行われていたのではないかという新聞報道等もありますので、過去、私どもの課に所属していた職員へのヒアリング等も的確に実施していくことを想定しております。

以上でございます。

【市長】 今御質問の、対象となる、どんなことを検証するのかということですが、今説明ありました法人監査そのものと、それから市OBの就任について、それから市有地の無償貸付けについて、これも対象になりますということで、このところをしっかりと対象とした検証を行っていきたいと思っています。

【読売】 そうなると、監査となると、県から市に権限が移行した平成28年から毎年度調べていくという形でいいのでしょうか。

【市長】 そうです。28年度以降の法人監査ということになります。

どうぞ。

【朝日】 監査の補足なんですけれども、朝日新聞でございます。

すいません、多分事務方になると思うんですけれども、ヒアリングは、現在の母子育成会の関係者にもヒアリングするということでよろしいでしょうか。

【健康福祉局】 あくまでも庁内の監査体制の検証となりますので、庁内に所属、28年度以降、私ども健康福祉局の総務部企画担当にいた職員を対象としてヒアリングすることを今想定しておりまして、法人様のほうについては、ヒアリング対象としては想定しておりません。

以上でございます。

【朝日】 じゃあ、当然、前の理事長にもヒアリングはしないということですね。

【健康福祉局】 今、理事長様が法人様のほうから告訴されている状況で、ただ、まだ収監はされていないということは伺っておりますので、法人様のほうで個別に接触するということは、市としては、前理事長様と個別に接触するということは市としては考えておりません。

以上でございます。

【朝日】 ただ、現在の、新体制になった母子育成会のほうにヒアリングしたほうが問題点がクリアになると思うんですけれども、いかがですか。

【健康福祉局】 母子育成会様、今、新体制、去年度、R5年度から千葉理事長の下で運営されておりますが、新しい、新体制につきましては、この監査の検証とは別に、新たに5年度は新体制で運営しておりますので、4年度までの誤った会計処理ですとか、不正な会計処理が本当に正されているのか確認しなければならないということは、検証とは別に、R5年度の分の法人実態を把握するというので、普通に監査を実施する予定でございます。

【朝日】 あと、これ、お願いになるんですけども、検証組織のフレームワークが固まったら発表していただきたいのと、あと、1回目の会合のときに取材の場を設けてもらいたいと。今、ヘイトスピーチの審査会の取材形式が一つ参考になると思うんですけども、ああいった形での取材を考慮していただけるとうれしいなと思いますので、要望しておきます。

《ふるさと納税等について》

【市長】 どうぞ。

【東京（幹事社）】 すみません、正式に挨拶させていただく前に。東京新聞です。よろしくお願いします。

ふるさと納税に関して、市長に3点質問がございます。

まず、先ほど返礼品にちょっと言及があったんですけども、市長のイメージで結構なんですけど、今後伸ばしていく返礼品の分野なんですけれども、よく、特産品があまり地方に比べて川崎市は乏しいと思うんですけども、例えば体験型ですとか、あるいは殿町のほうに特区があるので、医療ツーリズムじゃないですけども、医療系の体験型の何かをやるのか、それとも医療系の検査キットなどを返礼品として充実させていくのかというような、川崎市としての強みを生かした返礼品について、こういうところを強めていきたいというイメージを伺えればと思います。

【市長】 今言われたような話は、全て検討に入っております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。あともう一つ、市長の今後の見通しと伺いますか、御認識なんですけれども、総務省がふるさと納税ポータルに対してポイントの付与をやめるようにというようなことを言って、大分事業者の側から反対が出ているんですけども、このポイント付与をやめることは、川崎市にとってはプラスに働くのか、それともこれから返礼品を獲得していこうという中でマイナスに働くのか、どのようなお考えを抱いていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 前回、何回か前の会見で御質問いただいたんですけども、それを注視していきたいと思っています。私たち、懸念としては、ポイントがなくなることによって、その分、手数料の自治体負担が増えるのではないかとこのことを懸念していますが、どうなるかはこれからまだ分からないので、そこはしっかり注視していきたいと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。ふるさと納税関連で最後に1点なんですけれども、やっぱり不交付団体はかなり影響が大きいと思うんですが、多分毎年だと思うんですけども、ふるさと納税については、制度の見直しについて要望されているんだと思うんですけども、不交付団体については特に事情が異なるということで、県内でも不交付団体幾つかありますが、不交付団体がまとまって、特に我々にはこういう影響があるんだということで特別に要望に行くとか、そういった考えはお持ちでしょうか。

【市長】 県内の不交付団体でまとまっているんな、ふるさと納税だけに限りませんけれども、意見を言っていこうという取組は、あれは海老名の内野市長が呼びかけをさせていただいて、本市も加わる形で要望させていただいております。

【東京（幹事社）】 ごめんなさい、最後に1点だけ。その要望って、直近ではいつ頃行くとかって、もう決まっていらっしゃいますか。

【市長】 ちょっと事務方からでよろしいでしょうか。

【財政局】 財政局資金課担当課長でございます。

実際に、ちょっと今、お調べするのでお待ちいただけますか。

【東京（幹事社）】 回答準備できたらでいいので、取りあえず私からは以上です。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

《社会福祉法人母子育成会等について》

【読売】 すみません、さっきの話に戻るんですけども、母子育成会の有識者会議というのは、どれくらいの頻度で、原則非公開という形でやられる予定でしょうか。

【市長】 すみません、事務方からお願いします。

【健康福祉局】 健康福祉局企画課でございます。

まず、ちょっと訂正なんですけれども、外部有識者、特別職非常勤職員として任用するため、会議体ではまず前段としてございません。市長から御説明ありましたとおり。個別に一人ずつ日額報酬という形でお雇いさせていただいて、それを個別にもちろん御説明とかもしますけれども、もちろん最後のおまとめいただく場ですとか、御意見いただく際には、まとまってお集まりいただくということを、両方組み合わせることで、柔軟な、かつスピーディーに御意見をいただく場、日程調整だけで時間かかったらしようがないと考えておりますので、個別に伺うことも踏まえて考えておりまして、会議体という形ではございません。

以上でございます。

【市長】 いわゆる頻度。

【司会】 人数とか頻度。

【健康福祉局】 すみません、あと頻度ですね。おおむねですけれども、頻度は9月ぐらいから、8月中にこの形を決めさせていただいて、9月からおおむね月1回程度、個別だったり、お集まりいただいたりという形で御意見をいただく形を想定しておりまして、おおむね5、6回、皆様に御意見いただける場を設けられればと想定しているところでございます。

以上でございます。

【読売】 最終的に、外部から来た方の意見とかというのは、議事録として公開される予定なんですか。

【健康福祉局】 最終的には、私どもが組み合わせた資料、それに加えて、外部有識者から御意見いただいたものをまとめまして、調査報告書という形でまとめる予定でございます。

以上でございます。

《ふるさと納税等について》

【財政局】 すみません、財政局資金課担当課長でございます。

先ほど東京新聞さん、御質問のございました不交付団体による要望の関係でございます。

7月1日付で報道発表してございまして、6月の28日に県下の不交付団体7市町になりますけれども、まとめて、総務大臣に要請するとともに、その日のうちに、自見内閣府特命担当大臣宛てにも要望書を提出したところでございます。詳細につきましては、今申し上げましたとおり7月1日付で報道発表をしておりますので、そちらの資料も御確認いただければと存じます。

以上でございます。

【市長】 よろしいでしょうか。

【司会】 質問、以上でよろしいでしょうか。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当